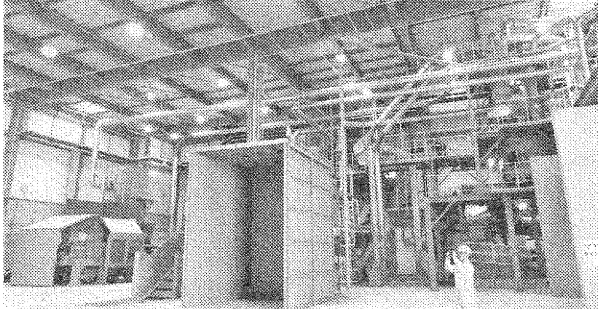


国内最大級RPF工場が竣工

日本ウエスト グループ生産量1万7000tに



新たに竣工した「第二工場」

日本ウエスト(京都 75・604・165 市、長田和志社長、☎05)は、同市伏見区千両松町内に新たなRPF製造工場を竣工した。3月中旬の稼働を予定している。生産能力は国内最大級となる月間4200t。グループ全体では、自社4工場と提携8工場の合計で同1万7000t以上を見込みだ。

新工場を「第一工場」、近接する既存の本社工場を「第二工場」として活用していく。新工場の敷地面積は3267平方メートル。主要設備として、破碎機2基と成形機3基(スクリー式1基、リングタイプ2基)などを備える。受入品目は、燃え殻▽汚泥(有機性汚泥に限る)▽廃プラスチック類▽紙くず▽木くず▽繊維くず▽動植物性残さ▽ゴムくずの8種類。設計・施工は、三共エンジニアリング(愛媛県四国中央市)が手掛けた。プラントの大きな特徴は、破碎原料を配管で風送し、ベルトコンベアを使用しない点だ。粉塵や異物混入を防ぐだけでなく、コンパクトなレイアウトを実現。作業効率を向上し、人手不足対策としての省人化につなげた。将来的には海外人材の活用も視野に入れる。

また、品質管理の徹底を図るため、施設内に分析室を設置。自社

で週1回、X線分析装置を使用して塩素量や鉛量を分析する他、第三者機関でも月1回、塩素量や発熱量、水分・灰分などの委託分析を行う。本社工場では2010年に国内初となるJISマーク認証を受けており、新工場でも取得を目指す。長田社長は、「中国や東南アジア諸国で廃プラ輸入規制が拡大する中、国内での資源循環利用が早急に求められている。6月に大阪で開催するG20では、政府方針として『プラスチック資源循環戦略』が発表される。こうした動きの一助として、大きな役割を担う施設だ」と語った。